

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R元年11月29日

## 【“聞き方名人”は幸せになる！？】 校長 宮地 敏彦

11月6日（水）、共栄小を会場として多治見市の授業研究発表会が行われました。どの学年も、仲間に関わり合って「わかる・できる喜び」を味わおうとする真剣な姿が素晴らしかったです。市内の多くの先生方からは『聞き方が上手だった。』という声もいただきました。“聞き方・話し方名人”を三本柱の一つにしている本校としては、子ども達の一生懸命さや教師の指導がそのように評価されたことは嬉しい限りです。

『話しを聞くことがしっかりできれば、それだけで学習の80%は成立する。』という説を聞いたことがあります。実際、相手の目を見て、うなづいたり、反応したりして話を聞くことは、理解を深め記憶をうながすという実験データがあります。児童の聞く姿は全校集会等で見る限り、4月当初より成長しています。しかし、学習においては授業中の私語が課題になっていたり、仲間のチクチク言葉に傷ついていたりする現状もあります。「聞くこと」や「舌をコントロールすること」が、なぜ大切なのかを4つの視点で考えてみましょう。



＜聞き合い、話し合う6年生＞

私たちはみな、多くの点で失敗するものです。もし言葉で失敗しない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

馬を御（ぎよ）するために、くつわをその口かけると、馬の体全体を引き回すことができます。また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さな舵（かじ）によって、舵を取る人の思いどおりのところへ持って行かれるのです。同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さな火が、あのように大きな森を燃やします。舌は火であり、私たちの器官の一つですが体全体を汚し、人生の車輪を焼きます。

どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。  
(聖書より)

### 1 言葉をもつものの使命

地球上に存在する生き物の中で、人間だけが言葉をもっています。それは人と人が互いに愛し合い、助け合って人生を豊かにするためにこそ、与えられていると言えます。

### 2 品性を高めるのも汚すのも「言葉」である

政治家をはじめ、教養があり地位がある人たちでさえ、失言や暴言等、言葉を誤って職や信頼を失うことは珍しくありません。それどころか人間は二千年以上前から、舌をコントロールできないことで人間関係を壊したり、争ったりして不幸を招いてしまうことが、上記の言葉からもわかります。『人の体は口から入る物によって汚されるのではなく、口から出る物によって汚される。』と言われる。心にあることが言葉になり、口から出る。逆に、口から出る言葉がその人の品性をつくっていくとも言えます。

### 3 私語は人の成長や時間を奪う

授業中の“いねむり”や“ガムをかむ行為”も決してよい姿ではありませんが、他人には迷惑をかけません。しかし、“おしゃべり”は先生の話聞きたい子や学習に集中したい子にとっては耳障りで大きな妨げとなり、その場の話し手にもストレスをかけます。演奏会や演劇の公演等でも“おしゃべり”は許されず、退室をうながされます。それくらい私語は罪の重い行為と言えます。

### 4 話し上手より聞き上手

“話し上手”と“聞き上手”…どちらも素敵なことであり、大切なコミュニケーションスキルです。強いてどちらが大切かと問われれば、私は「聞き上手」と即答します。私たち人間は、自分の悩みや苦しみに心を寄せ、耳を傾けてくれる人にこそ安心感を覚え、信頼を寄せます。“聞き上手”の人は人に癒やしや平安を与え、幸福感を感じさせてくれます。

共栄小の子どもたちには、「聞き方・話し方名人」をめざし、引き続き授業や“もくもく掃除”、“ハピボカ言葉”の推進等を通して、舌をコントロールする力を伸ばして欲しいと願っています。